

国語科授業案

日時 平成18年7月12日(水) 2校時
生徒 3年A組 男子17名 女子17名
授業場 1年A組教室
授業者 太田 諭

I. 単元名 筆者の主張と論理の展開を読み取ろう。(中心教材「新しい博物学の時代」)

II. 教材観

国語科の学習で培った力は本来、様々な教科・日常場面に生かされるべきものである。しかし、近年の生徒の言葉遣い等を見てもなかなかそれが教科の外に広がっていかないという実感をもつ。

中心教材「新しい博物学の時代」の主張は、文系と理系とに分断された現在の学問の在り方に異を唱え、総合的な観点から学問をとらえ直した「新しい博物学」という学問分野を確立しようというものである。この主張は生徒にとっても新たな発見となるだろう。また、現代天文学の最新技術と古文・藤原定家の日記が結びつくことによって超新星爆発の時期が特定された例を中心として主張に説得力をもたせている。論理の展開としては、まず筆者の主張及び主張するに至った経緯が序論を形成している。本論においては4例の具体例が挙げられ、序論を補強する結論が続いている。主張が明快であるばかりでなく展開にも矛盾がなく、論理の展開を学ぼうえでも参考になる教材である。

III. 生徒観 省略

IV. 授業にあたって

1 指導事項定着のための手だて

義務教育終了段階にあたる今年は、これまで身につけた力を更に定着させる段階にあたる。

まず、論理の展開を読み取るうえで欠かせない「文章構成」をしっかりと捉えさせるために、序論・本論・結論の分かれ目について、内容面・接続詞等から把握させたい。そのために個人単位で分かれ目を探し、その理由を他者に説明する場を設定する。また、小グループ(4人班)で、分かれ目を統一させるための話し合いを行うことで、着目する視点を明確にさせたい。

次に、序論における論理の展開を捉えるために、主張をまとめさせるのではなく、主張の書かれている場所を確認させる。その際に、本文中の「そこで」に着目させることによって主張が最初にあることに気づかせたい。筆者の主張にある「新しい博物学」の定義についてもまとめさせたい。

さらに、本論の具体例を表にまとめることによって、展開を捉えさせたいと考える。

2 国語への関心を高めるための手だて

教材そのものが「他教科の結びつき」に関連した内容であるため、教材の魅力自体が一つの手だてとなるが、さらにその効果を高めるために、導入時に柿本人麻呂の和歌「東の野にかぎろひの立つ見えてかへり見すれば月かたぶきぬ」を使用する。一つには、今後学習する和歌の導入としてのねらいがある。もう一つは、理科学的な発想が和歌の情景を明らかにするという体験をとおして、教科の結びつきを実感させたいとのねらいからである。また、本文学習後に、他教科が結びついた身近な事例を探す活動を取り入れることで、日頃から知識を結びつけようとする態度を意識することにつなげていきたいと考える。

3 論理的に考える力を高めるための手だて

説明的文章では、学習そのものが一つの手だてとなる。さらに、文章構成の把握の段階で小集団における話し合いの場を設定することで、論理的に考える力を高めていきたいと考える。

V. 単元の目標

1. 文系と理系の学問の結びつきに関心をもち、様々な教科で学習した内容を結びつけて考えようとする態度を培う。(関心・意欲・態度)
2. 説明的文章における主張と論理の展開を読み取ることができるようにする。(読むこと)
3. 論理を展開するうえでの接続詞等の効果について説明することができるようにする。(言語)

VI. 本時案

1. 目 標

- (1) 序論・本論・結論を明確にするために、積極的に話し合いに臨もうとすることができる。
- (2) 序論・本論・結論の分かれ目を捉えることができる。

2. 授業過程 (1 / 3)

	生徒の学習活動	主な教師の働きかけ	評価方法
課題把握	1 柿本人麻呂の和歌を見て、短歌であると指摘することができる。	1 これは何ですか。	・生徒観察
	東の野にかぎろひの立つ見えてかへり見すれば月かたぶきぬ		
	2 西 かへり見とは振り返っていること 三日月 傾くからの連想 半月 片と傾くの連想 満月 日本で月といえば満月 等と記述することができる。	2 この短歌の大意を考えましょう。()に入る言葉と、その理由を書いてください。 ※補助 二つ目の()を三択問題とする。 三日月 半月 満月から選ばせる。	・ワークシート 手だて・関
	3 理科の知識から答えが導き出せるとともに、知識は結びついていることに気づくことができる。	3 答えは、別の教科の発想で解くことができます。わかるでしょうか。	・生徒観察
4 課題を意識しながら、本文を黙読することができる。	4 今回の説明的文章は、これに関連のある内容です。どんなことが書かれているのかをしっかりと読み取ってください。		
	「序論・本論・結論の分かれ目をとらえよう。」		
課題追究	5 自分なりに本文を序論・本論・結論の3つに分け、理由を書くことができる。	5 本文は1 4の形式段落から成ります。本文を序論・本論・結論の3つに分けてください。また、なぜそこで分かれるのか、理由を書きましょう。	・観察・ワークシート
	6 班での話し合いにおいて、自分の意見を相手に伝えるように説明するとともに、意見を統一することができる。	6 班で意見を交流して、納得したものに統一しましょう。 ※司会・班長 順番・班長から時計回り記録及び代表発表者・班長以外	手だて・論 ・観察・ワークシート (机間指導)
	7 班の意見(分かれ目のみ)を発表することができる。 序論・① 3と4 ② 4と5 結論・① 1 2と1 3 ② 1 3と1 4	7 代表の人は、まとまった意見を発表してください。	・観察・ワークシート
	8 序論と本論の分かれ目とその理由について、「そこで」の役割に着目し、③と④がつながりであり、分かれ目は④と⑤の間であることを説明することができる。	8 序論と本論について、なぜそこで分かれるのかを教えてください。	・観察・ワークシート
9 本論と結論の分かれ目とその理由について、⑩も事例であることから、結論は⑭のみであることを説明することができる。	9 本論と結論について、なぜそこで分かれるのかを教えてください。	・観察・ワークシート	
解決	10 序論・本論・結論がなぜ、そこで分かれるのかを記述することができる。	10 序論・本論・結論がなぜ、そこで分かれるのかをまとめましょう。	・ワークシート

主張と論理の展開を読み取ろう。

東の野にかぎろひの立つ見えて

かへり見すれば月かたぶきぬ

柿本人麻呂

大意 東の野に太陽の光が昇るのが見えて

振り返ってみると（ ）の空に（ ）月
が傾いていた。

西 三日月

半月

満月

序論・本論・結論の分かれ目をとらえよう。

- ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭

それでは、せつかく得られた人類の叡智はばらばらのままです。

そこで、「新しい博物学」として、科学者の目で、古代から書き残されてきたさまざまな文章を見直したり、とらえ直してみたりする必要があると考えました。理科系と文化系の壁を取り払って、総合的な観点で事物を見直したとき、思いがけない結びつきを発見することができるからです。

かに星雲は、おうし座ゼータ星の近くにある、熱いガスの塊が多数群れている星雲です。

(結論部も用意)

③とのつながり

具体例

IV. 授業計画

時	目 標	主な学習活動	評価規準		
			関心意欲態度	話す・聞く能力	言語事項
1 本 時	○話の内容を正確に聞き取るとともに、内容に対する自分の意見をもつことができる。	○MDから放送される話の内容を聞きながらメモを取り、問題に答える。 ○「人の呼び方についての意見」の内容を聞き取るメモを取るとともに、内容に対する自分の意見を持ち、。		○話の内容を正確に聞き取り、問題に答えている。 ○話の内容についての自分の意見を持ち、メモに書き起こしている。	
2	○自分の意見を補強するための材料を収集することができる。 ○話し合いの進め方を把握することができる。	○人の呼び方についての自分の意見を補強するための材料を探す。 ○話し合いの進め方についてのルールを知る。	○自分の考えを的確に話すためにふさわしい材料を探そうとする。	○自分の考えを的確に話すためにふさわしい材料を選んでいる。	
3	○話し合いにおいて、根拠を明確にして自分の意見を述べることができる。 ○他者の意見を聞き、意見の主旨を聞き取ることができる。 ○他者の意見の優れた点を発見することができる。	○10人一組による「人の呼び名を考える」話し合いを行う。 ○他班の話し合いを聞き、評価する。		○話し合いにおいて根拠を明確にして自分の意見を述べている。 ○他者の意見を聞き、意見の主旨を聞き取っている。 ○他者の意見の優れた点を発見している。	○話す速度や音量、言葉の調子や間のとおり方などに注意している。